

JEITA

ナノエレクトロニクス技術フォーラム

ー 社会インフラを支える電気エネルギーストレージの開発動向 ー

■主催者名：ナノエレクトロニクス標準化専門委員会

■担当部署：知的基盤部

■参加者数：約70名

概要

IT・エレクトロニクス技術は、多くの産業において製品やサービスの高機能化や生産性向上を実現するためのキーテクノロジーとして、各種製品やサービス等の付加価値創造の源泉を担っており、社会の発展に大きく貢献してきました。

今日の社会で扱う情報量の急激な増加に伴い、増大するエネルギー消費は、世界共通の課題である地球温暖化の一要因となっており、革新的なIT・エレクトロニクス技術開発による解決が急務となっています。革新技術の中でも特に、ナノエレクトロニクスは、従来のエレクトロニクスの機能を格段に向上させ、かつ、大幅な省エネルギーを実現できるキーテクノロジーと期待されています。

JEITAでは、これまで当該分野の標準化活動および開発動向調査を実施すると同時にナノエレクトロニクスの研究開発の重要性を提言し続けており、当フォーラ

ムは2011年から数え、5回目の開催となりました。今回は、スマートコミュニティやモバイルの効率的エネルギー利用ならびに再生可能エネルギー利用の拡大に際しキーとなる「電気エネルギーストレージ」にスポットを当て、フォーラムを開催しました。



プログラム

【司会】ナノエレクトロニクス標準化戦略G 副主査 遠藤 浩幸 氏（日本電気株）

○開催挨拶

ナノエレクトロニクス標準化専門委員会 委員長 萬 伸一 氏（日本電気株）

○「エネルギーハーベスティングの最新動向と国際標準化」

竹内 敬治 氏（株）NTTデータ経営研究所 社会・環境戦略コンサルティングユニットシニアマネージャー）

○「色素増感太陽電池の開発動向と計測・評価の課題」

桐蔭横浜大学 大学院工学研究科 講師 池上 和志 氏

○「高性能ナトリウムイオン蓄電池の開発動向」

東京理科大学 理学部 応用化学科 教授 駒場 慎一 氏

○「次世代型固体高分子形燃料電池：材料・システムの設計・開発」

東京工業大学 資源化学研究所 教授 山口 猛央 氏